

令和6年3月21日

世田谷区立八幡中学校
校長 山田 勝基 様

世田谷区立八幡中学校
学校関係者評価委員会
委員長 田中 彰夫

令和5年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1 調査結果の概要

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月に5類感染症に移行された。そうした中で令和5年度は、配慮を伴いながらも従前の生活に徐々に戻りつつある1年間であった。

本年度も、保護者、地域、生徒へのアンケートを実施した。昨年度は回収方法の変更に伴い、保護者からの回数率が大きく落ち込んだが、本年度はやや持ち直した。回収率は、保護者68%、生徒95%であった。地域については本年度から人数での表記に変更し、昨年度とほぼ同数の23名からの回答を得た。

今般も、各設問回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」)と『否定定期評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」及びE『分からない』)に分けてその割合を比較してみた。コロナ禍においては厳しい評価の項目も見られたが、本年度は『肯定的評価』が多く、経年変化についても、もともと肯定的評価の高い項目においてもさらに評価ポイントが伸び項目や、厳しい状況ながらも改善が見られる項目などがあり、学校側の継続的な努力が結果としてあらわれている様子が見受けられる。

昨年度の学校関係者評価の結果を受け、本年度の改善・努力を行った項目について考察し、本年度どのように評価されているのか、結果とともに分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『わからない(E)』の比率の高かった項目については、内容をよく吟味し、さらに改善・努力することが引き続き望まれる。

2 調査結果の詳細

(1) 保護者の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全44項目（共通項目）中

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	1 項目
5割以上のもの	6 項目
6割以上のもの	6 項目
7割以上のもの	11 項目
8割以上のもの	16 項目
9割以上のもの	4 項目

※参考 昨年度（R4年評価）44項目	
5割未満のもの	0 項目
5割以上のもの	5 項目
6割以上のもの	6 項目
7割以上のもの	14 項目
8割以上のもの	15 項目
9割以上のもの	4 項目

ii) 9割以上の項目

13-(5)「八幡中学校は「確かな学力を育成する学校として、（中略）学習する機会を提供していることを一つでも知っている」95%

8-(1)「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」93%

3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい」92%

3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」90%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「44項目」）

i) 『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>14項目 <減少（悪化）した項目数>27項目 <変化なし>3項目

<ベスト2>

5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」15ポイント

5-(1)「本校は、ていねいに指導している。」12ポイント

<ワースト2>

10-(2)「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」-15ポイント

4-(2)「本校は、子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある。」-14ポイント

ii) 『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>33項目 <増加（悪化）した項目数>6項目 <変化なし>5項目

<ベスト2>

5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」-17ポイント

6-(4)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」-12ポイント

<ワースト2>

10-(2)「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」12ポイント

4-(2)「本校は、子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある。」6ポイント

(2) 地域の方の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全15項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	1 項目
5割以上のもの	0 項目
6割以上のもの	0 項目
7割以上のもの	4 項目
8割以上のもの	2 項目
9割以上のもの	8 項目

※参考 昨年度（R4年評価）15項目	
5割未満のもの	1 項目
5割以上のもの	1 項目
6割以上のもの	2 項目
7割以上のもの	2 項目
8割以上のもの	6 項目
9割以上のもの	3 項目

ii) 100%の項目

1-(1) 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」

2-(1) 「学校行事の内容は充実している」

6-(1) 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」

②昨年度対比（比較できる質問項目数「15項目」）

i) 『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>9項目 <減少（悪化）した項目数>3項目 <変更なし>3項目

<ベスト2>

5-(3) 「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」 17 ポイント

3-(3) 「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる」 16 ポイント

<ワースト2>

6-(2) 「学校は、安全性を高めようと積極的に地域と協力している」 -6 ポイント

4-(2) 「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」 -3 ポイント

ii) 『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>10項目、<増加（悪化）した項目数>2項目、<変化なし>3項目

<ベスト2>

2-(2) 「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」 -12 ポイント

3-(4) 「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子がわかる情報が掲載されている。」 -12 ポイント

<ワースト2>

5-(2) 「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」 13 ポイント

4-(2) 「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」 4 ポイント

(3) 生徒の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全34項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	1 項目
5割以上のもの	2 項目
6割以上のもの	3 項目
7割以上のもの	5 項目
8割以上のもの	14 項目
9割以上のもの	9 項目

※参考 昨年度（R4年評価）34項目	
5割未満のもの	2 項目
5割以上のもの	2 項目
6割以上のもの	4 項目
7割以上のもの	9 項目
8割以上のもの	14 項目
9割以上のもの	3 項目

ii) 9割以上の項目（上位4項目）

1-(2) 「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」 95%

3-(1) 「学校行事は楽しい」 95%

1-(1) 「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている」 94%

5-(1) 「先生たちは、生徒にていねいに指導している」 94%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「32項目」）

i) 『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞28項目、＜減少（悪化）した項目数＞3項目、＜変化なし＞1項目

＜ベスト2＞

6-(5) 「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」 24 ポイント

8-(6) 「自分の意見が活かされていると感じている」 16 ポイント

＜ワースト2＞

4-(3) 「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」 -2 ポイント

7-(1) 「部活動は楽しい」 -2 ポイント

ii) 『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞23項目 ＜増加（悪化）した項目数＞5項目 ＜変化なし＞4項目

＜ベスト2＞

6-(5) 「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」 -20 ポイント

8-(6) 「自分の意見が活かされていると感じている」 -15%

＜ワースト2＞

4-(3) 「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」 5 ポイント

2-(1) 「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」 2 ポイント

4-(1) 「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考え方行動している」 2 ポイント

3 分析に関するコメント

(1) 学習指導について

①保護者の評価

- 当該4項目全てで、半数が肯定的評価であるが、肯定的評価及び否定的評価の割合は昨年度に比べ減少し「わからない」の割合が増加している。
- 1-(1)「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている」の肯定的評価は、前年度 79%から今年度 73%に、否定的評価は昨年度 13%から今年度 7%に減少、「わからない」が昨年度8%から今年度 20%と増加している。
- 1-(2)「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価は、昨年度 56%から今年度 50%に、否定的評価は昨年度 18%から今年度 10%に減少し、「わからない」が前年度 26%から 39%に増加している。
- 1-(3)「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は、昨年度今年度ともに 81%と変わらず、否定的評価は 9%から 4%に減少し、「わからない」が 10%から 16%に増加している。
- 1-(4)「映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は、昨年度 63%から今年度 58%に、否定的評価は昨年度 16%から今年度 11%に減少し、「わからない」は昨年度 21%から今年度 31%に増加している。
- 本校の学習指導については、1-(2)や 1-(4)のような実際の授業の様子についての情報を得る機会が少なく「わからない」とする保護者が3割以上いる。「わからない」の割合は、2年前からの推移では、1-(1)から順に 1-(4)までの項目それぞれについて、一昨年度は 31-40-28-30、昨年度は 8-26-10-21、今年度は 20-39-16-31 であり、今年度はコロナ禍の一昨年度と同様の結果と考える。アンケート回収率の影響もあるが、保護者が来校する機会は増えているが、保護者の行動の変化はあまり認められないのではないか。

②生徒の評価

- 当該5項目全ての項目について、生徒全体の肯定的評価は各項目 85%以上で、昨年度に比べて増加し、否定的評価は減少している。
- 1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり友人と考えたりする時間を授業の中でとっている」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度 93%から今年度 94%と増加している。
- 1-(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度 87%から今年度 95%に増加し、同一生徒群における肯定的評価についても、現 2 年生の昨年度 1 年生時は 89%で今年度は 94%に、現 3 年生の昨年度 2 年生時は 89%で今年度は 95%に増加している。生徒全体の否定的評価は前年度 8%から今年度 2%に減少している。
- 1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は、昨年度 90%から今年度は 92%と増加している。同一生徒群における肯定的評価については、現 2 年生の昨年度 1 年生時は 92%で今年度 88%に減少し、現 3 年生の昨年度 2 年生時は 83%で今年度 93%に増加している。同一生徒群における否定的評価について、現 2 年生は昨年度 1 年生時 8%から今年度 12%に増加し、現 3 年生は昨年度 2 年生時 18%から今年度 7%に減少している。

- 1-(4) 「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度86%が今年度は89%に増加している。同一生徒群における肯定的評価については、現2年生の昨年度1年生時は87%が今年度84%に減少し、現3年生は昨年度2年生時及び今年度ともに85%と変わらず高評価である。
- 1-(5) 「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の肯定的評価は、昨年度77%から今年度86%に増加している。同一生徒群における肯定的評価については、現2年生は昨年度1年生時81%から今年度86%に、現3年生は昨年度2年生時75%から今年度88%に増加している。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学習指導についての共通項目については、一昨年度、昨年度同様に保護者の方が生徒の評価より低い傾向である。

(2) 生活指導について

①保護者の評価

- 当該2項目とも肯定的評価は80%以上で高く、否定的評価は減少している。
- 2-(1) 「私は、学校での過ごし方やルールについて子供に考え方支える指導をしている」の肯定的評価は、昨年度71%から今年度83%に増加し、否定的評価は昨年度13%から今年度5%と減少している。
- 2-(2) 「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子供が理解している。」の肯定的評価は、昨年度86%で今年度85%、否定的評価は昨年度8%で今年度5%であり、大きな変化はない。

②地域の評価

- 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」の肯定的評価は昨年度同様100%である。

③生徒の評価

- 当該3項目全てで、生徒全体の肯定的評価は今年度85%以上である。
- 2-(1) 「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度93%から今年度91%と減少している。
- 2-(2) 「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度83%から今年度93%と増加している。また、同一生徒群における肯定的評価については、現2年生は昨年度1年生時86%が今年度92%に、現3年生は昨年度2年生時85%が今年度93%に増加している。
- 2-(3) 「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度81%から今年度89%と増加している。同一生徒群における肯定的評価については、

現2年生は昨年度1年生時88%から96%に、現3年生は昨年度2年生時78%から今年度83%に増加している。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 「生徒の行動」についての肯定的評価は、地域と生徒全体で90%以上と昨年度同様に肯定的評価の割合が多く、特に地域では2年連続100%と非常に高評価である。
- 「教員の生徒への指導の理解」についての肯定的評価は、保護者が85%、生徒で89%と肯定的な評価の割合が高い。

(3) 学校行事について

①保護者の評価

- 当該3項目全てで肯定的評価が85%以上であり、いずれの項目も否定的評価が変わらないか減少している。
- 3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい」の肯定的評価は昨年度89%から今年度92%、3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある」の肯定的評価は、昨年度86%から今年度90%といずれも上昇している。
- 3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている。」の肯定的評価は、昨年度88%から今年度85%に減少している。

②地域の評価

- 当該2項目とも肯定的評価は、昨年度同様90%以上である。
- 2-(1)「学校行事の内容は充実している」の肯定的評価は、昨年度88%から今年度100%であった。
- 2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」の否定的評価は、昨年度12%が今年度0%であった。

③生徒の評価

- 当該3項目の「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」「先生は生徒の意欲を大切にしている」の生徒全体の肯定的評価は、昨年度同様に85%以上である。
- 3-(2)「学校行事は楽しい。達成感がある。」の生徒全体の肯定的評価の過去3年間の推移は、一昨年度-昨年度-今年度で89-87-88%であり、同様に否定的評価は10-9-9%と変わらない。学校行事においては、一定程度の割合で達成感を得ていない生徒も認められる。
- 3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている」の肯定的評価は、昨年度86%から今年度92%に増加している。同一生徒群における肯定的評価について、現2年生は昨年度1年生時91%から今年度92%に、現3年生は昨年度2年生時81%から今年度93%に増加し、否定的評価について現2年生は昨年度同様0%で、現3年生は昨年度2年生時12%から今年度3%に減少している。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 今年度は、学校行事についてはほぼ例年通りの開催となり、学校行事を通した学びについて、生徒も保護者も地域も肯定的な評価である。

(4) キャリア教育について

①保護者の評価

- 当該3項目全てについて、肯定的評価は減少し、「わからない」の割合が増加している。
- 4-(1)「本校はキャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価は、昨年度57%から今年度55%に減少し、「わからない」が27%から32%に増加している。
- 4-(2)「本校は子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的評価は、昨年度75%から今年度61%に減少し、「わからない」が昨年度18%から今年度27%に増加している。
- 4-(3)「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の肯定的評価は昨年度57%から今年度51%に減少し、否定的項目が昨年度19%から今年度21%に、「わからない」が昨年度24%から今年度27%に増加している。昨年度同様キャリア教育の取組について保護者が認知していない状況を反映しているのかもしれないが、情報提供が望まれているのではないかと考える。

②生徒の評価

- 当該3項目について、昨年度の生徒全体の肯定的評価は80%未満であったが、今年度は4-(2)について肯定的評価が80%以上であった。
- 4-(1)「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考え方行動している」で、生徒全体の肯定的評価は、昨年度56%から今年度59%で、否定的評価も35%から今年度37%に増加している。同一生徒群における肯定的評価は、現2年生は昨年度1年生時67%から今年度59%に減少し、現3年生の過去3年間の推移については一昨年度1年生時68%、昨年度2年生時47%、今年度3年生時60%であったので、2年生時に下がる傾向があるかもしれない。
- 4-(2)「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」では、同一生徒群の肯定的評価については、現2年生が1年生時79%から今年度88%に増加し、現3年生が2年生時70%から今年度85%に増加している。
- 4-(3)「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、今年度の学年別の肯定的評価が、1年生60%、2年生71%、3年生82%と学年が上がるごとに増加している。

③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者も生徒も、半数以上が肯定的な評価をしているが、保護者においては「わからない」が増加しており、どういった指導がキャリア教育についての指導にあたるのかを把握していない可能性がある。他方、生徒は4-(2)(3)の評価のように学年が上がるごとに肯定的な評価が増えている。

(5) 教職員（先生）について

①保護者の評価

- 5-(1)「本校は、ていねいに指導している。」と 5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」の『肯定的評価』は共に 89%と、昨年に比べ 12 ポイント以上增加了。

②生徒の評価

- 5-(1)「先生たちは、生徒にていねいに指導している。」は 1 年生の『否定的評価』はゼロ。平均しても『肯定的評価』94%と大変高い。
- 5-(2)「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の『肯定的評価』は 75%あり、全学年同じような評価である。

③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者の評価が昨年に比べ上がったのに対し、生徒は例年と変わらない結果となっている。

(6) 全般について

①保護者の評価

- 6-(1)「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は 84%と、直近の 3 年間ほぼ変わらず安定した高い評価となっている。
- 6-(2)「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』は 79%あり、この項目も直近の 3 年間ほぼ変わらない高い評価である。
- 6-(3)「子どもは、家庭で宿題や e ラーニングなどで学習している。」の『否定的評価』は昨年とほぼ変わらない 29%であるが、『わからない』が昨年より 10 ポイント増加している。
- 6-(4)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」は昨年に比べ『肯定的評価』が 11 ポイント増の 73%となった。
- 6-(5)「本校は、近隣の（幼稚園）小・中学校で構成する「学び舎」の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある。」の『肯定的評価』は 87%あり、ほとんどの保護者は交流する機会があることを認識している。
- 6-(6)「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の『肯定的評価』は 75%で、例年と同様の水準であった。

②生徒の評価

- 6-(1)「学校生活は、楽しい。」は各学年 90%以上の『肯定的評価』であり、更に、各学年とも『とても思う』が 50%を超えている。
- 6-(2)「学校生活は、達成感がある。」は、1 年生がやや評価が低いものの、全体では 83%の『肯定的評価』である。
- 6-(3)「私は、家庭で宿題や e ラーニングなどで学習をしている。」は全体で 31%の『否定的評価』である。

- 6-(4) 「私は、塾で学習している。」は1年生 50%、2年生 57%、3年生 84%と学年が上がるにつれ通塾率が高くなっている。
- 6-(5) 「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」については、『肯定的評価』が一昨年 16%、昨年 33%、今年 57%と徐々に上がっている。
- 6-(6) 「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」は 72%の『肯定的評価』で例年とほぼ変わらない。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学び舎の小学生との交流について、交流の機会は増えており、保護者の評価は急上昇したが、生徒の『肯定的評価』は保護者ほど上がってない。

(7) 部活動について

①保護者の評価

- 7-(1) 「部活動は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は 81%、7-(2) 「部活動は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』は 77%あり、昨年とほぼ同じ水準であった。

②生徒の評価

- 7-(1) 「部活動は、楽しい。」、7-(2) 「部活動は、達成感がある。」は全学年 80%を超える『肯定的評価』である

③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者・生徒共に 10%程度の『わからない』を除き、ほとんどが楽しく達成感を感じて活動していることが伺える。

(8) 情報提供について

①保護者の評価

- 8-(1) 「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」は 93%の『肯定的評価』、8-(2) 「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」は 82%の『肯定的評価』を得ており、共に評価が高いものの、8-(2)については少しずつ『わからない』が増えている。
- 8-(3) 「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている。」は『否定的評価』が 23%、『わからない』が 30%あった。
- 8-(4) 「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」の『肯定的評価』は昨年同様 87%と高評価であった。

②地域の評価

- 3-(1) 「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。」は 96%の高い『肯

定的評価』があり、『わからない』はゼロであった。

- 3-(2) 「学び舎」の活動について、情報が提供されている。」の『肯定的評価』は昨年同様の87%であった。
- 3-(3) 「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。」の『肯定的評価』は79%となり、昨年より17ポイント増加した。
- 3-(4) 「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」は『わからない』が26%あるものの、『否定的評価』はゼロであった。

③保護者と地域の評価の比較

- いずれも相応の水準である。ホームページについての『肯定的評価』は保護者が減少したが、地域では上昇した。

(9) 学校運営について

①保護者の評価

- 9-(1) 「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」は『肯定的評価』が72%となり、昨年より7ポイント増加した。
- 9-(2) 「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」の『否定的評価』は5%と低いものの『わからない』が24%ある。

②地域の評価

- 4-(1) 「学校の重点目標が明確である。」は評価が高く、『否定的評価』がゼロであった。
- 4-(2) 「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」は78%の『肯定的評価』であったが、昨年、一昨年より若干評価を下げている。

(10) 家庭と学校の連携について

①保護者の評価

- 10-(1) 「私は、学校公開にすすんで参加している。」の『肯定的評価』は昨年度と変わらない65%であった。「否定的評価」は昨年度とほぼ変わらない30%であった。
- 10-(2) 「私は学校行事、PTA や地域主催の行事などに進んで協力している」の『肯定的評価』は20%ポイント減の66%であった。
- 10-(3) 「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している。」の『肯定的評価』は昨年度より3ポイント減の52%であった。「否定的評価」は28%であった。

(11) 地域との連携について

①保護者の評価

- 11-(1)「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は68%で昨年より7ポイント減少している。「わからない」は24%であった。
- 11-(2)「本校は、地域の活動に協力的である。」の肯定的評価は74%と昨年より8%ポイント少ししている。「わからない」が22%であった。
- 「本校は、地域に情報を提供している。」の肯定的評価は62%で昨年より7ポイント減少している。「わからない」が33%で、10ポイント増加している。

②地域の評価

- 5-(1)「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」の肯定的評価は81%となり、昨年より4ポイント上昇している。
- 5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」の肯定的評価は44%と低く、「否定的評価」が34%と12ポイント増加している。
- 5-(3)「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」の肯定的評価69%と昨年度より16ポイント増加した。「わからない」が17%と14ポイント減少している。

(12) 学校の安全性について

①保護者の評価

- 12-(1)「本校は、安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価は86%で昨年とほぼ同様である。
- 12-(2)「本校が避難訓練やセーフティ教室などで子どもに関する指導をしている。」の肯定的評価は85%で、昨年度よりも11ポイント減少している。
- 12-(3)「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の肯定的評価は72%で、昨年度とほぼ同様である。

②地域の評価

- 6-(1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価は100%である。
- 6-(2)「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の肯定的評価は87%である。

(13) 八幡中学校 独自項目

①保護者の評価

- 13-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協働して子どもを育てている」の『肯定的評価』は76%であった。
- 13-(2)「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある集団として成長している」の『肯定的評価』は80%であった。
- 13-(3)「本校では授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の『肯定的評価』は10ポイント減少し、67%であった。
- 13-(4)「通知表に評価されていることは納得できる」の『肯定的評価』は89%で、昨年度よりも

12 ポイント増加した。

- 13-(5) 「八幡中学校は「確かな学力育成する学校」として、(中略) 学習する機会を提供していることを一つでも知っている」の『肯定的評価』は 95% であった。
- 13-(6) 「私は保護者会にできるだけ出席している」の『肯定的評価』は昨年度よりも 7 ポイント減少し、80% である。
- 13-(7) 「学校と保護者の十分な対話の場がある」の『肯定的評価』は 8 ポイント増加し、85% であった。

②地域の評価

- 7-(1) 「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている」の『肯定的評価』は 96% と高い評価であった。

③生徒の評価

- 8-(1) 「授業において、先生は私の学習状況に合わせた学習課題を設定してくれるような工夫をしている。」の肯定的評価は 76% であった。
- 8-(2) 「授業において、先生は私が理解しやすいように、指導方法を工夫している。」の肯定的評価は 80% であった。
- 8-(3) 「通知表の評価は納得できる」の『肯定的評価』は昨年と同様の 85% となった。
- 8-(4) 「先生はだれに対しても平等に接してくれる」の『肯定的評価』は昨年度よりも 10 ポイント増加し、81% であった。
- 8-(5) 「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある」の『肯定的評価』は昨年度と同様の 88% であった。
- 8-(6) 「自分の意見が活かされていると感じている」の『肯定的評価』75% で、昨年度よりも 16 ポイント増加していた。
- 8-(7) 「学校の放課後補習教室や（中略）など学習する機会を設けられていることを 1 つでも知っている」の『肯定的評価』は昨年度とほぼ同じの 86% であった。
- 8-(8) 「家庭内で進路や将来の仕事について話している」の『肯定的評価』は横ばいの 77% で、昨年度とほぼ同様であった。
- 8-(9) 「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」の『肯定的評価』は横ばいの 29%、『否定的評価』もほぼ横ばいの 66% であった。
- 8-(10) 「貸し出し用タブレットを自分の学習のために役立てている（ただし、学校で使っているソフトやアプリは除く）」の『肯定的評価』は 64%、『否定的評価』は 31% で、昨年度とほぼ同様であった。

4 昨年度の評価で改善・努力した点 (今年度、改善・努力してきた点)

【学校生活について】

新型コロナウィルス感染症の5類移行に伴い、様々な教育活動が平成時代のそれに戻ってきて、多くの生徒が前向きに取り組んでいる姿勢があると捉えることができる。

学校関係者評価アンケートにおいて、ほぼすべての項目で肯定的評価が昨年度よりも向上している。「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は91%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は95%であり、どちらも高い数値であった。

また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は81%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は92%と、生徒と同様に高い数値であった。学校生活の制限が撤廃される中で、本校の教育活動に一定の理解を示してください、ご協力いただけてきたことは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○生徒の安心・安全を第一に考えた学校運営。

- ・生徒が充実した学校生活を送ることができるような生活指導
- ・安全指導の充実（施設危険個所の定期的な点検と早期対応、不審者対応）
- ・構成的グループエンカウンターを用いた日認知能力の向上

○教育相談の充実

- ・校内特別支援委員会において、専門家をふまえた生徒理解のための研修。
- ・SCや外部機関との連携を視野に入れた対応の検討。
- ・WEB Q-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認。

生徒の状況の情報共有。個々に適した指導や働きかけの確認。

○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援。

○学習指導の充実

- ・研究テーマを踏まえて、年間一度以上の自己研修授業を実施。
- ・ICT機器の効果的な活用に向けた校内研修の充実
- ・個別最適な学びの充実

【学習指導について】

個に応じた学習の充実に向けて、学習の個別最適化やUDを意識した授業等を進めてきた。

GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器を効果的に活用した授業展開を行うとともに、指導技術向上に向けての校内研修を実施してきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなどICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は89%となり、昨年度の同様の項目と比べ、さらに5ポイント上昇している。また、学習の個別最適化に関する質問では、それぞれ83%、89%と高い評価を得ることができた。さらに協働的な学びの充実を図ったことで、「自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の生徒の肯定的評価は94%と高い結果となり、昨

年度の同様の項目と比べ、こちらも上昇している。教員の授業改善の努力が生徒に伝わっていることが分かる。一方で、保護者の同様の数値は58%であり、生徒との結果に開きがある。これは、保護者が授業を直接観る機会がないことが一因と考えられる。同質問での「分からない」の回答が約30%となっている。公開授業は実施してきたが、数値の変化が昨年度と変容が見られなかつたため、令和6年度は改善に向けての方策を講じていく。

また、学び舎の教育活動を再開した。今年度は小学校体育の実施、小学生を招いての部活動体験などを行った。学校関係者評価において昨年度の同様の項目と比べ、24ポイント上昇した。生徒の意識ではまだまだ交流できていないということも読み取れるので、今後の取組を更に充実させたものにしていく。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○校内研修

- ・教員の授業力向上、ICT機器の活用
- ・授業の母体となる学級組織の向上に関する取り組みの実施
- ・全教員によるPISA型読解力の育成に向けた研究授業の実施。

○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、チームティーチング（理科・英語）による授業。

○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導

○学び舎小学校との連携

・学び舎研修会

共通テーマ「学習の個別最適化」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施。

- ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

【地域との連携】

地域との連携については未だ十分に行うことができていないのが現状であるが、地域の方々の支援をいただきながら、いくつかの地域行事を実施することができた。そのため、地域との連携について（保護者）の項目では、「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は67%、「地域の活動等に協力的である。」の肯定的評価は74%となり、昨年度と比較すると、それぞれで低下しているので、地域で活動している生徒の様子を伝えたり、地域との連携をさらに深めることができる機会を増やしていく。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

○C組家庭科授業支援

○地域と協働した避難所運営の実施

○2つの地域行事にボランティアとして生徒が参加

○検定対策講習での受付作業や検定の試験監督業務。

○部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認告及び部長との懇談会。

OSTEP及び部活動における指導。

5. 学校関係者評価委員会としての提言

(1) 学習指導について

保護者については、昨年度と比べ「わからない」が増加しているが、保護者は学習指導については、学校と生徒間の事と捉え学校を信頼し生徒自身に任せている傾向があるかもしれない。一方で、学習指導の様子について保護者が知る機会を、デジタル機器の活用等も併せてより広げてほしい要望を考えることもできるのではないか。いずれにしても、引き続き、保護者が授業公開の場などに参加する工夫により、学校が生徒のためにより良い学習指導を行っている姿を保護者に理解してもらえるよう、努力をしていただきたい。

(2) 生活指導について

どの質問項目も肯定的評価が高く、生徒の個性や特性を理解した上で、生徒に応じた指導を行うといった学校の方針・努力が評価されたものと考えられる。また、保護者や教員の生活指導を生徒が理解して適切に行動している結果と推察される。現在取り組んでいる「学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）」により、生徒の社会性や主体性がさらに高まることを期待する。

(3) 学校行事について

生徒、保護者、地域ともに、どの質問項目についても肯定的評価が高く、学校が行事を大切に捉えている表れと考えられる。引き続き地域と一緒に生徒を見守る機会として位置づけられることを期待する。

(4) キャリア教育について

保護者の「肯定的評価」は減少し「わからない」の割合が増加している一方で、生徒の「肯定的評価」は徐々に増加している。特に生徒は4-(2)(3)の評価のように学年が上がるごとに肯定的な評価が増えており、こうしたことからも、学校側の努力は徐々に実ってきているものと推察される。引き続き保護者への情報発信を引き続き行ってもらうとともに、進路に関する施設の整備なども一案と考えられる。

(5) 教職員（先生）について

教職員は常に生徒との関係性の構築に努力をされており、その結果、保護者において「ていねいな指導」「相談しやすい」は10ポイント以上上昇し90%前後となり、先生に対する信頼度があがった。一方、生徒においては「ていねいな指導」は94%と大変高い数値であるが、「相談しやすい」は横ばいの75%であった。これは教職員が生徒一人ひとりに対して丁寧に話を聞くなどの対応により生徒の信頼を獲得している状況がうかがわれる一方で、教職員が多忙を極めるために生徒が遠慮がちになっている面もあるのではないかと推察される。引き続き、生徒の機微を見逃さないよう、親身な対応をお願いしたい。

(6) 全般について

学校生活が楽しく達成感があると感じている割合は、毎年保護者も生徒も非常に高く、充実した学校生活を送っていることがうかがえる。引き続き生徒の主体性を育むことで、達成感や成長につながることを期待したい。

(7) 部活動について

「たのしさ」「達成感」共に、保護者、生徒ともほぼ横ばいの 80%前後と、コロナ禍以前の充実した部活動に近づいてきている様子がうかがわれる。部活動については昨今の様々な事情があることから、できる範囲の中で実施して、生徒たちの主体性や満足度を高めてもらいたい。

(8) 情報提供について

ホームページや回覧板、保護者はすぐるなど、情報を得る媒体は多くあり、充実していると感じていることがうかがわれる。引き続き、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでもらいたい。なお、情報過多により本当に重要な情報が埋もれることもありうるので、情報の精査や見せ方などの工夫も必要な時期になっているとも考えられる。

(9) 学校運営について

保護者に指導の重点を伝えているの『肯定的評価』が昨年より 7 ポイント増加して 70%を超えた。引き続き保護者会などにおいて、ポイントを絞ってわかりやすく伝えてもらいたい。

(10) 家庭と学校の連携について

保護者に対するいずれの項目も『否定的評価』が 30%前後と高い水準で、特に 10-(2)「すすんで協力している」は『肯定的評価』が 15 ポイント減少・『否定的評価』が 12 ポイント増加している。昨今の環境からなかなか難しい問題ではあると思われるので、まずはできる範囲のなかで小さなことから進めてもらいたい。

(11) 地域との連携について

地域との連携の行事が徐々に再開している。まずはできることを進めてもらいたい。

(12) 学校の安全性について

施設面での補強などの効果が出ている。引き続き、防犯・防災に対するきめ細やかな対策を継続してお願いしたい。

以上